

レポートの「問い」探し

ここでは、レポートを書く出発点となる「問い」をどうやって探していくか、その手順を説明します。レポートとは、「～とは何だろうか」といった「問い」に対しての「答え」を書くものですから、まず「問い」がはっきりしていないとレポートが書けません。

その「問い」を見つけるためにまず課題と関係の深そうな本を1冊選んで読み、その中からレポートの「問い」となる問題点についての情報を見つけます。問題点の全体像が見えてくるまでさらに情報を探し、そこから自分のレポートの「問い」となる問題点を絞り込みます。

ここでは400字詰め原稿用紙で5枚から10枚、字数にして2000字から4000字程度の量のレポートについて説明します。「授業内容を中心として」「指定された本を読んだり」「自分で調べたことを加えたりして」理解した内容をまとめる「期末試験の代わりに」課題として出されるレポートをイメージしてください。

【レポートの「問い」探しの手順の例】

1. 課題を分析し、何について問われているのか、「問い」の範囲をはっきりさせる

レポートと一言でいってもいろいろな課題があります。どのようなことが要求されているのか、自分がどのような作業をしなければならないのかを、まず把握する作業が大切です。レポートには大まかに言って4つのパターンがあります。指示語に着目して、どのような問いを作ればいいのか、作業範囲を明確にしましょう。

★指示内容とレポート・パターン……指示する言葉 ……作業範囲	難易度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告型 (学習レポート) <ul style="list-style-type: none"> 『国際社会への招待』の3章を読んで要約しなさい ……①読んで報告する ★ ➤ 問いの例：この本は何についてどのように書いているのか。 EU統合までの経緯を述べ、その課題を整理しなさい ……②調べて報告する ★★ ➤ 問いの例：□とは何か。□はどのようにできあがったのか。□の問題点は何か。 ・ 論証型 (研究レポート) <ul style="list-style-type: none"> 京都議定書以降の日本の立場について自分の考えを述べなさい…③与えられた問題について論じる ★★★ ➤ 問いの例：□は本来どうあるべきか。□すべきではないか。 東アジア経済における現在の日本の課題を抽出し論じなさい・④自分で問題を立てて論じる ★★★★★ ➤ 問いの例：□は□の点で問題ではないか。□は□の方向が望ましいのではないか。 	

2. アイデアの中心となる本を探す

何が要求されているのかが明らかになったら、アイデアの中心になる本を1冊探します。レポートを書くにはまずどんなことを書くかテーマとなる「問い」を持つことが出発点ですが、ある程度知識がないと疑問もわかりません。その「問い」を持つためのアイデアを貸してくれる本が見つかり、何を書いたらいいか方向性もみえてきます。

★既に何らかの形で指定されている場合

読書レポートの課題として先生に指定されている本、
教科書として授業の中で使われている本、参考図書として紹介された本

★何も指定がない場合

自分にとってわかりやすい入門書
問題点をわかりやすく解説してくれている新書

2. 中心となる本をざっと読んで、問題点を拾い出す

読む際に「これだ！これが自分のレポートに必要なだ！」「何で？何でこうなるの？」「今まで知らなかったけれどそうだったのか！」「そうそう、自分もそう思っていた！」「そんなのは違う！」と思うところに付箋（ポストイット）を貼り、ページ数と要点をメモします。つまり共感・納得した点、さらに疑問を深めた点、新しい事実、反論を感じた点などです。「 」書き、ゴシックで強調しているような何度も出てくるキーワードも拾い出します。

★今の段階でチェックすべき要点は次の3点。それぞれ色を変えてポストイットを貼って、感じたことをメモしておくと便利です。

赤（テーマ・主張）：著者が問いかけているものは何か、それに対して著者はどういう答えを出しているか

青（理由・方法）：著者はそれに対して、なぜそうなるかと理論づけているか

黄（根拠・事例）：さらにそれを説明するために具体例として上げられているのは何か

3. 必要となる知識・情報を洗い出す

軸となる本1冊では足りない補足材料を探します。2の作業で疑問に思った点、その本だけでは全体が見えない部分、その本には書かれていない重要な情報などを調べます。まずはどこを探したらいいか、百科事典で目星をつけましょう。

レポートを書くための基本材料である、「具体例」「説得材料」「理解の手助けとなる用語の解説」にあたる情報だと思った部分も付箋をうっておきましょう。

★百科事典や専門事典で調べる方法

「関連項目」をたどりながら問題の全体像を把握する

百科事典の最後の巻である「索引巻」で関連項目を調べ、系統的な知識を得る

項目の最後についている「参考文献」で一番基本的な文献を知る

4. 洗い出した問題点を「問い」の形にして、最初のテーマを設定する

これまでの作業で、一番疑問に思った点、書きたいと思った点を疑問文の形にして、ここで書こうとする内容を明確にします。それがそのままレポートや論文のテーマとなります。

★読書・報告型の場合 → 本や章・節のタイトルを疑問文にして言い換える

「福祉は、資本主義の歴史の中でどのように発展をとげてきたか。」

★調査・報告型・論証型の場合 → 調べた内容の中で2の作業でひっかかった問題を問いに直す

「日本の産業空洞化は、その後の自動車産業に利益をもたらしたのだろうか。」

「日本は、環境問題において国際的な役割と責任を果たしているといえるのか。」

「現在の日本はアジア諸国側の経済にとってどのような位置づけをもっているのか。」

5. 一番最初のラフ・アウトラインを設定する

これまでの作業で頭の中に入ったキーワードを拾い出し、そこから書こうとする点を箇条書きにし、それを並べ替えて大まかな骨組みをつくります。詳しくは「アウトラインの作り方」編を見てください。